

NPO耐震総合安全機構理事長に就任して

—理事長 安達和男氏からのご挨拶—



新たに理事長に就任した
安達和男氏

2017年6月9日、総会後の理事会にて、次期理事長に選出されましたので、一言、ご挨拶を申し上げます。

JASOは2004年の設立から13年目になりました。この間、各自治体のAD派遣、簡易診断、耐震診断、評定等の耐震化支援の活動を続けてきました。また、耐震化の促進のための調査、研究、講演、広報の活動も盛んに行っています。こうした実績を踏まえて、これから二年間の新理事会体制でも、各活動の進展を図っていく所存です。

そこで、改めて三つの目標を掲げたいと思います。

一つ目は、JASO設立の原点に戻り、生活者の視点に立った耐震総合安全性の掘り下げです。暮らし続けるための耐震性能は、どうあるべきか追求します。熊本地震では、補強済建物でも建替えになったものがありました。また非木造建物では、新耐震基準当初の建物には補強すべきものもあります。

マンションのピロティや雑壁の作り方にも課題があります。木造住宅も2000年以前のものには危険性があります。木造住宅密集地域の大規模火災発生の可能性は大きく残っています。これらの危険性を少しでも減らし、耐震総合安全性を目指す診断や補強計画をしていけるように、JASOの取り組みを続けます。

二つ目は、耐震補強計画、設計への支援強化です。JASOはNPOとしての性格から、また設計事務所登録をしていない立場から、設計業務に携わることはできません。しかし、JASOの会員が携わっている設計や施工監理の業務については、これまでも支援してきました。工法研究、段階補強や概算工事費調査の取り組みは、その一環です。新任の岸崎耐震化支援事業部長のもと耐震化支援事業部を中心に、どのような支援が会員の補強設計に有効か強化対応の検討をしていきます。

三つ目は、JASOの経済基盤の強化です。おかげさまで、2016年度も黒字の決算ができました。しかし毎年、予測では厳しい所を何とか決算しているというのが実情です。新任の中村常務理事を中心に、収支の安定と、活動を続けられる経済基盤の強化を目指します。

以上が、三つの目標です。この実現のためには会員各位をはじめ、各関係者の方々のご協力とご支援が必要です。よろしくお願いいたします。



目次

新理事長からのご挨拶	1
JASO総会の報告	2
JASO協力会総会の報告	3
耐震改修事例報告	4 ～ 5
JASO推奨品登録の報告	6
セミナー報告	7
お知らせ&スケジュール	8

2017年度 JASO通常総会の報告

2017年6月9日、日中友好会館ホールにて、2017年度通常総会が行われた。出席者：101人（内委任状53名）。総議決権数1/2以上で総会が成立し、以下3つの議案事項は全て承認された。

●1号議案 2016年度事業報告の件

理事会・委員会活動等の事業報告が行われた。主な活動として、耐震セミナー、技術者講習会の実施。耐震シンポジウムの開催。都の新たな取り組みへの対応など報告があった。JASOが受託した事業は、アドバイザー派遣：139件、簡易診断：42件、耐震診断：22件を実施。評定の申し込み実績は74件（内改修計画が28件）、評定取得後の変更審査が13件。

●2号議案 2016年度決算報告の件

当期経常収益は予算より約1060万円増、支出合計は約930万円増。当期収支差額は約143万円となった。

●3号議案 役員を選任の件

定款第14条、及び、第16条に基づき、本年度より新任4名を含む20名の理事、並びに新任2名の監事が選任された。

●その他、報告事項

総会後の臨時理事会にて、本年度より理事長が深澤義和氏から安達和男氏へ交代となった。副理事長は山内哲理氏が再任し、岸崎孝弘氏、坪内真紀氏の新任2名を含む3人が選任された。また、常務理事として佐藤寿一氏から中村茂氏が選任された。これにより主要理事の構成が変わりJASOにとって本年度は新たなスタートとなる年であることが印象付けられた。

■講演会

総会後、2部構成の講演会が行われた。第1部は東京都都市整備局 耐震化推進担当部長 飯泉洋氏から、「特定緊急輸送道路沿道建築物における耐震化促進に向けた検討について」。第2部は今期で理事長を退任された深澤義和氏より、「のぞまれる対震改修」をご講演頂いた。



前理事長 深澤義和氏



前常務理事 佐藤寿一氏



東京都耐震化担当部長
飯泉洋氏



総会議長：河野進氏、副議長：遠藤克彦氏



総会の様子

JASO協力会2017年度総会報告

平成29年6月6日（火）JASO2階会議室

報告 菊地守、事務局 畑中篤

徳田会長、畑中事務局のもと、協力会メンバー20名、JASOメンバー3名の方々が参加されました。恒例のボージョレ会や懇親会などが議題に上がるとともに、化研マテリアル株式会社・境谷勉氏、株式会社ケー・エフ・シー・矢部裕之氏、宇部興産株式会社・大田隆亮氏の3氏が新役員として承認されました。また、来年度の体制について、協力会の全てのメンバーからの発言、提案などがなされ、活発な話し合いがなされました。

徳田会長からは、「(徳田氏ご自身が)つなぎ役となることで次の若い世代に、JASOの活動意義と協力会の活動を繋いでいきたい」との挨拶がありました。

深澤理事長からは「今後も集合住宅など建築物の耐震総合安全性を高めることが最重要課題だ。1つは熊本の震災後は倒壊しなかった住宅でも住み続けられない実態も多く、新耐震・旧耐震も含め現状において求められる耐震性を目指すこと。もう1つは住宅が供給過剰となっておりデベロッパーも新築より物件のリニューアルを検討していること、そういった状況で協力会皆さんには耐震技術の向上を大いにアピールしてもらいたい」とのお話を頂きました。

その他、協力会会員からは、施工会社・材料メーカー・商社・設備関連会社など各分野において得意な部分や、アピールしたい事が違って来るため協力会の中でもグループ分けをして打合せを進めていく事が必要との話となり、今後は2～3ヶ月内に参集し具体検討させるべきと話されました。

終了後には居酒屋・加賀廣にて親睦会が実施され、これからも恒例の行事となりそうです。

JASO協力会 理事は以下の通りです。

留任	会長	徳田 精久	アサヒボンド工業(株)
留任	副会長	副島 勝義	(株)セントラル技研
留任	副会長	鈴木 弘一	(株)ベン
留任	役員	遠藤 等	(株)E&CS
留任	役員	小山 博司	(株)東京ソイルリサーチ
留任	役員	内山 稔	斎久工業(株)
留任	役員	竹田 喜一	須賀工業(株)
留任	役員	三條場 信幸	エスケー化研(株)
留任	役員	大根田 達也	矢作建設工業(株)
留任	役員	舘林 匠	建装工業(株)
新任	役員	境谷 勉	化研マテリアル(株)
新任	役員	矢部 裕之	(株)ケー・エフ・シー
新任	役員	大田 隆亮	宇部興産(株)
留任	事務局	畑中 篤	アクシス(株)

セブンスターマンション桜台耐震補強・大規模修繕工事

統括・構造：佐賀田中建築研究所 佐賀修
 建築：建築設計工房パツソ ア パツソ 鈴木ひとみ



外観 改修前（左）と改修後（右）

セブンスターマンション桜台建物概要

名称	セブンスターマンション桜台
所在地	練馬区豊玉上
地域地区	商業地域、35m第3種高度地区、防火地域 準住居地域、30m第3種高度地区、防火地域
都市計画道路	事業決定無し(実施の場合セットバック4m)
建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上7階、地階なし、塔屋2階
建物高さ	24.25m
竣工年度	昭和50年4月
戸数	24戸
建築面積	187.92㎡
延べ面積	1,245.28㎡
敷地面積	341.77㎡

補強設計助成金	2,469,000円	
耐震補強工事費＋監理料	64,616,000円	
耐震補強工事助成金(監理料含む)	57,080,000円	低Is値加算有り
耐震改修工事 自己負担金	7,539,000円	314,000円/戸
外壁改修工事等工事費	18,000,000円	750,000円/戸

セブンスターマンション桜台は、環状7号線に面して建つ築42年の分譲マンションで、東京都条例で定められた特定緊急輸送道路沿道建築物に該当します。2012年4月の練馬区のアドバイザー派遣から約5年の時間をかけて、今年の2月耐震補強工事・大規模修繕工事を完了しました。

セブンスターマンション桜台 耐震化の流れ概要



管理組合の理事長、理事会は、区分所有者全員の賛成での耐震改修工事実現に向けて、途中にアンケートを実施しながら補強計画を段階的に進め、大震災から命と財産を守る目標と情報を区分所有者と共有することに尽力し、住まいの耐震化を実現いたしました。

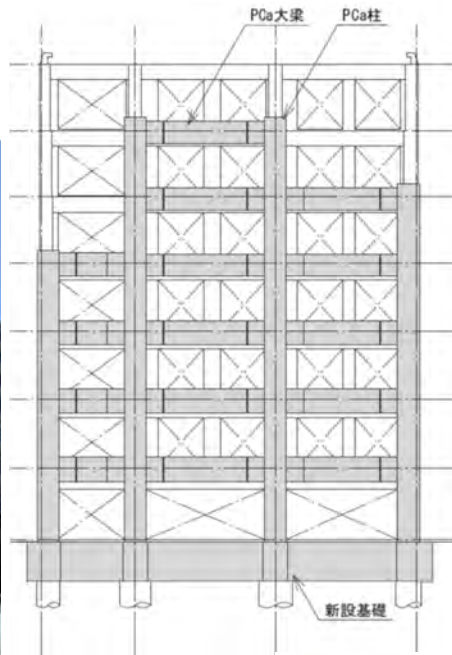


外観パース掲示写真

- 補強計画 -

耐震診断の結果は、東西方向の1～6階でNGでした。補強計画は、東西方向の偏心率を改善しながらの強度補強とし、アウトフレーム案で検討を始めました。敷地の南側は、空いているが計画道路で拡幅予定となることを前提に計画しました。当初は、プレキャストとプレストレストコンクリートのアウトフレームを検討しましたが、揚重のため環七通りの側道の通行を止める必要があり、許可を取るのにハードルが高いため断念しました。次に、在来工法で1階から施工する案に切り替えて、フレームのボリュームを2案計画し、所有者の意向を確認しながら計画を進めました。アウトフレームは、計画道路により境界までの離れが僅かとなるため、バルコニーの手摺の壁厚も取り込んでバルコニー前面に納まる扁平断面形状としました。それによりバルコニーの幅は、従前の避難ルート幅を確保しました。

◆プレキャストとプレストレストコンクリートのアウトフレーム案



階	東西方向			
	補強前		補強後	
	Is	S _D	Is	S _D
7	0.624	1.00	0.673	1.00
6	0.344	0.67	0.639	0.99
5	0.322	0.67	0.612	1.00
4	0.322	0.67	0.624	1.00
3	0.293	0.67	0.613	1.00
2	0.320	0.67	0.626	1.00
1	0.479	0.67	0.821	1.00



アウトフレーム形状A案



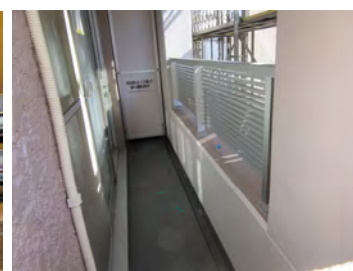
アウトフレーム形状B案（実施架構）



2階バルコニーを解体し杭工事



在来工法で1階から順次施工



アウトフレームとバルコニー面の養生



設備配管もすっきり移設

JASO推奨品・施工法指定 第5号 「耐・スリ・ゴン」のご紹介

技術情報委員会 坪内 真紀

1. 第5号JASO推奨品・施工法について

技術情報委員会は、JASO推奨品・施工法制度の第5号として、リノ・ハピア株式会社が開発した「耐・スリ・ゴン」について審査し、推奨施工法に指定し、5月19日の理事会にて承認されました。

2. 開発の経緯

耐・スリ・ゴンは耐震スリットカッター搭載 Gondola です。スリットカッターは40kgと重く、「Gondolaではスリット工事はできない」という意見が多かった中、足場設置がネックとなるような現場で Gondolaでの施工ができるように開発が進められました。廊下のない階段室型の建物でのスリット施工はもちろん、バルコニー側の工事でも室内に入室せず施工でき、足場設置よりは費用が安くなるケースがあります。足場を組むのが難しい立地の建物や、高層階にだけスリットを入れたい場合などに適している施工方法です。

現在、Gondolaは1基のみですが、リースも行っています。

3. 耐・スリ・ゴンの特徴

Gondolaはスペースが3m×1m、3点吊りで吸着装置を搭載しており反力を伴う作業も可能です。カッターは一般的な湿式ウォールソーではなく、乾式変芯フランジウォールソーを使用していて幅は7cmまで対応できます。乾式で水が不要なので、乾燥時間が不要であり、すぐに次の工程に移れます（ただし切断時間と刃のコストは湿式よりかかるとのこと）。

Gondolaには養生フラップを設置し、カッターカバーによる粉塵回収システムを装備しています。

推奨工法の指定理由

- ・耐震スリットを施工する時に1階から建て込む枠組み足場を使わず、屋上から吊る Gondola を足場とするので、高層部分などの施工に適している。また養生シートなどを使用しなくてもよく、室内が暗くならず施工できる。
- ・「公共建築改修工事標準仕様書」の部分スリット工事に適用できる、一般財団法人ベターリビングの評定（CBL M1002-13号）を取得している。



(上段左) Gondola足場
 (上段中) 養生フラップ
 (上段右) ウォールソーカッター
 (下段) Gondola内部

練馬区耐震セミナー「熊本地震被害と耐震化の取組み（安全・安心なまちづくりを目指して）」
2017年4月29日 会場 練馬区立区民・産業プラザ（ココネリ） 報告：伊藤正利

練馬区主催、JASO共催の耐震セミナーが4月29日に開催されました。会場となった練馬区立区民・産業プラザは西武池袋線練馬駅の北口広場に面した場所で大変利便性の高い施設です。セミナーは主に分譲マンション管理組合に向けて毎年開催されてきましたが、今年から賃貸マンションのオーナー等の建物所有者も対象としており、連休初日にもかかわらずそれらの方を含め19名の方が参加されました。

参加者のお住まいの建物は特定緊急輸送道路沿道建築物に該当し耐震診断を実施済のところも多いとのことでしたので、講演内容は耐震診断に限らず、その先の補強設計、耐震改修工事の進め方に関するものとし以下のように行いました。

講演1）熊本地震の被害から考える耐震化（岡田和広氏）

熊本地震の被害状況を構造種別ごとに紹介したうえで耐震診断から補強工事までの流れを具体的な事例に基づいて解説。

講演2）「建物の付加価値を向上させる賢い耐震改修の進め方」（伊藤正利氏）

建物に求める耐震性の目標の設定の仕方と、各建物の適した工法の選定ポイントの解説および耐震補強工事と大規模修繕工事を組みあせた総合的な改修の進め方についての紹介。

質疑応答では耐震スリットに関する事等、具体的な工法に関する質問が複数あり参加者の皆さんが具体的に耐震化を進めていこうとする意欲を感じることができました。

講演の最後に練馬区の耐震助成制度の拡充について練馬区都市整備部建築課耐震促進係・砂岡正隆係長より案内があり、その後、相談会が開催されセミナーは終了しました。練馬区では同様の形で来年度以降も引きつづきセミナーを実施していくとの事です。



(左) 都市整備部建築課長
田中淳氏



(中) 伊藤正利氏の講演の様子



(右) 岡田和広氏の講演の様子



個別相談の様子



(左) 伊藤正利氏・
近藤一郎氏 対応

(右) 岡田和広氏
対応

.....お知らせ.....

耐震アドバイザー構造担当者連絡会 活動状況

報告：幹事 原田光政

標記のAD構造連絡会は、2012年9月25日の第1回から5年目を迎えた今年5月17日に第10回の連絡会を開催しました。連絡会設立の動機は、2011年3月の東日本大震災を契機にJASOのアドバイザー派遣業務が倍増したことから、構造AD担当者が20名から53名に増員され、構造担当者間の情報交換・連携・研鑽の必要性の認識の高まりでした。

2012年度から本格化した東京都特定沿道建物の耐震診断業務では、構造図のない建物並びにアスベスト等で耐火被覆された鉄骨造建物が取残され、効率的な推定構造図作成手法の確率が、大きな課題となりました。

当連絡会では下記の開催で、簡易診断・精密診断に於いて時宜に適した問題点・課題を協議し、課題解決に向けたJASO委員会設立へ繋げてきました。

- 第3回(2013/9)・・・構造図のないRC造・SRC造・構造図復元手法の検討
- 第4回(2013/12)・・・構造図のない小規模鉄骨造の簡易調査事例検討
- 第7回(2015/3)・・・JASOの簡易診断の課題(第1世代・第2世代)
- 第9回(2016/11)・・・耐震改修計画に伴う、概算工事費算出の課題

尚、現在の連絡会案内対象者は、AD構造担当者44名・構造系会員16名(新会員含む)、計61名です。本年6月より新たな推進体制として、幹事長(高橋達夫)・幹事(軽石実・篠田秀治・上原寛明・原田光政)の5名で連絡会を運営します。

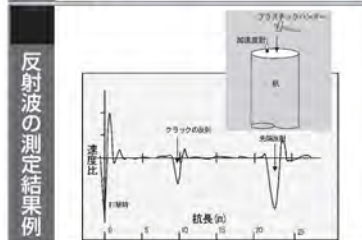
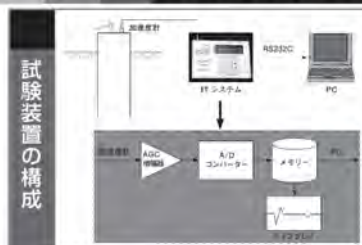
2017年 JASO行事スケジュール

7月	21日 (金)	理事会
	22日 (土)	マンション耐震セミナー(すまい・るホール)
	25日 (火)	アドバイザー会議
8月	22日 (火)	アドバイザー会議(予定)
	30日 (水)	都沿道技術者講習会(JIA会館)
9月	26日 (火)	アドバイザー会議(予定)

JASO協力会からの
お知らせ



杭の健全性試験 I T 試験



杭の健全性試験は、ハンドハンマーにより杭頭部を軽打し、発生した微小ひずみ弾性波の反射性状を、杭頭部に設置した加速度計により測定する非破壊試験です。反射波の測定波形から、杭の断面形状の変化やクラックの推定ができるため、杭体の健全性を確認することができ、弾性波速度を設定することにより杭長の推定も行えます。既存杭(使用中の杭)でも調査が可能です。

一杭の施工管理および既存杭再利用における品質確認



地盤と構造物の総合コンサルタント

株式会社 東京ソイルリサーチ
http://www.tokyosoil.co.jp/

本社 〒152-0021 東京都目黒区東が丘 2-11-16
TEL.03-3410-7221 / FAX.03-3418-0127
お問合せ先 つくば総合試験所特殊試験室
TEL.029-851-9501 / FAX.029-851-9559